
ヒロインカタリ

超電磁ボーイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヒロインカタリ

【Nコード】

N5061P

【作者名】

超電磁ボーイ

【あらすじ】

化物語のヒロインメンバーの阿良々木の話題で盛り上がる(?)話です

(前書き)

初心者なのでいろいろアドバイスお願いします！

ここは、神原の家であるそこには

戦場ヶ原に八九寺に千石に羽川にもちろん神原もいる

「今回集まったのは、阿良々木 先輩についてなんだが」

「阿良々木君がどうかしたの神原？」

みんなを代表して戦場ヶ原が聞き返すと

「いや・阿良々木先輩のフラグ体質についてなんだが」

「あゝあれですか・たしかに阿良々木さんは、もってますね」
うんうんと他のメンバーもうなずいていた・千石を除いて

「あ、あのフラグ体質ってなんですか？ 暦お兄ちゃんって旗に関してなんかすごいんですか？」

と目をキラキラさせながら質問してきたのであった

「えゝとだな千石ちゃんフラグ体質は、阿良々木先輩の場合はハーレムを意味するんだよ」

「ハーレムって女の子をいっぱい彼女にするアレですか？」

「そうね・阿良々木君のフラグ体質は、彼女からしたら邪魔だわ」

「たしかに、戦場ヶ原さんかしたらライバルが増えるしね」

「まったくですね！ 阿良々木さんが気づいていればいいんですけどねゝ」

「無理ね」

はあゝと三人が残念そうにしていると

「だがその体質のおかげで戦場ヶ原先輩は、彼女になれたのだからな」

「たしかにそうだけど・・・」

「そうですねゝ私なんか幽霊で小学生ですしねゝ」

「私は、戦場ヶ原さんに先にアタックされて・・・」

「あ、あゝすぐく元気ないですけど・・・大丈夫ですか？」

と千石が慌てながら羽川の心配をしていると

「だけど、私の彼氏なのにそれで盗られるかもしれないのよ!？」

「大丈夫ですよ! 阿良々木さんは、戦場ヶ原さんに夢中ですからね」

「あ、あのー」ですから大丈夫です!」

忘れられてしまった

「羽川さんが「だけど・・・羽川さんにも」

と弱気な発言と消された羽川と千石であった

「そこは、気にしないでいいと思いますよ」

「そうよね・・・うん」

そこで神原があることに気づいた

「あれ? 千石ちゃんと羽川先輩はどこに?」

「たしかにね」

「ですね」

周りを見ると縁側でお茶を飲んでいた

「どうします?」

「ふれないで、おきましよう」

と三人が納得していると

「阿良々木さんがいないのも新鮮ですね」

「だけど、ボケしかないわね」

「なんかもうどうでもいいですね」

うんと三人が納得したのでお開きとなった・・・

縁側の二人・・・

「そういえば、騒がしくないですね」

「そうですね」

と上から羽川と千石である

部屋を見ると・・・

「「誰もいない!」」

(後書き)

いろいろ失敗してるかもしれませんが。最後まで読んでくれてありがとうございます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5061p/>

ヒロインカタリ

2010年12月15日03時36分発行